

学校にいけない・いけない子をもつ 親同士がつながる場

解決できる場ではないけれど
それを目指す一端となることを
願って開催しました。(事務局)

令和3年3月21日(日) 午後1時30分～3時開催報告
会場 地域交流古民家カフェ AGALA 2階

参加した方の言葉から当事者の思いをお届けします！

中学生になると
勉強が・・・

「授業にたまに出ても分かれへんで
面白くないから出たくなる」

「勉強とかを言い出すと
プレッシャーを与えるかと思う」

異学年の親御さんが揃っていたので、勉強について様々な意見と経験が話されました。

高校生の親御さんからは、休みがちだったけど進級のために3学期はすごくがんばって登校したという嬉しい報告もありました。

そんな中で、親の心情がよくわかるお話がありました。

「(以前は)宿題やった？とついつい口に出てしまっていた。」

「先に先に言うから(親は)嫌われる」

「先が分かるから、親は言う」

「自分の子どもの頃は、大人って子どもの気持ちが分からないって思っていたのだから、やっぱり私たち親は分かってないんだと思う。」

親御さんたちがお互いの気持ちを受け容れながら、でも今の子どもたちにとって自分たちの存在がどんなものであるのか冷静に見ようとしていました。

親がつい子どもたちに指示してしまうのは、

「自分(親)の段取りに合わせてほしいから言うんだろね」

という言葉もありました。片付けやお風呂など親の都合を優先してしまうと笑いながら話されていました。

でも、これはどこの家庭でもあることではないでしょうか。子どもたちがその時どんな状態なのか、それによって親の言動の見え方・伝わり方も変わるのだと思います。子どもと向き合って適切な言葉かけをできればいいのですが、実際はどの親御さんも失敗しながら子育てをされているのではないかと思います。

「孤独だった」

同じ立場の方と話すことがなければ
誰もこんな風を感じてしまいます。

「抱え込んでしんどいし、誰にも分かってもらえないと思ってしまう。」

「こんなこと言うたらひどい母親だと思われるかもしれない。」

「友達にも言えないことがある。」

「失敗談をいっぱい言えたらと思う。」

親御さんたちは、毎日子どもさんの様子を見ながら、ひとりで考え込んでしまったり、夫婦や家族で意見が分かれたり、葛藤や悩みを抱えておられます。

社会は多様化したといわれ、都会ではいろんな選択肢があるようですが、まだまだ田舎には選択肢がないのが現状です。

この会を企画した際に、こんな言葉も後押しとなりました。

「私は話を聴くことはできるけど、自分の子どもは毎日学校へ行っているし、ほんとの気持ちを分かっていけないと思うんです。」

学校へ来られなくなった子どもさんのことを、ママ友達も親身に心配しています。でも、立場が違うときっと私では役に立たないと思うと話してくれました。

だから、当事者である親御さんたちに集まってもらうことを決めたのです。

そして、2回目となった今回はこんな言葉も出ました。

「私たちはここへ来られるけど、この場へ来るのにもタイミングがあると思う。」

「だから続けていくことが大事ですよ。」

誰かに聴いてもらいたい・助けてほしいと思ったときに、こんな場があるとつながることができるかも知れません。

そんなお話から定期的開催していくことを決めました。

2021年度からは 2か月に一度のペースで開催します！

奇数月 (1月 3月 5月 7月 9月 11月) 第3日曜日 午後1時30分～ @地域交流古民家カフェ AGALA